

富山県小矢部市

能越自動車道関係遺跡群試掘調査報告

五社遺跡

石名田遺跡

地崎遺跡

1991・3

小矢部市教育委員会



能越自動車道と遺跡群（平成 2 年撮影）

富山県小矢部市

能越自動車道関係遺跡群試掘調査報告

五社遺跡

石名田遺跡

地崎遺跡

1991・3

小矢部市教育委員会

## 序 文

小矢部市は、県下でも有数の遺跡集中地帯として知られておりますが、これまでに、わかっている遺跡は主に小矢部川の西岸段丘および丘陵に集中しており、小矢部川の東岸地域の実態はいまひとつ明確さを欠いておりました。

今回の調査で3箇所の遺跡が確認されましたが、この発見は庄川扇状地の開発史を知る手がかりをあたえるもので、重要な発見と言えましょう。

能越自動車道は、富山県西部及び能登地域と三大都市圏との高速体系を確立することにも、地域の連絡を強化し、人・物流の円滑化を図り、産業の振興、観光資源の連絡などの地域の均衡ある発展を促すなど、地域の活性化に寄与する重要な路線で、市民のよりよい生活と経済の発展を期待し建設されるものであります。しかし、一方、埋蔵文化財の保護も私共に課せられた重大な使命であり、今回の調査結果を基に、今後、道路計画と充分な調整が行われる様、関係各位に対し切に願うものであります。

最後に、調査にあたりお世話になりました地元の方々、富山県埋蔵文化財センターはじめ関係各位に、深く感謝の意を表するだいです。

平成3年3月30日

小矢部市教育委員会

教育長 岩峯 敬正

## 例　　言

- 1 本書は、平成2年度に能越自動車道及びそのアクセス道路建設事業に先立ち建設予定地内において実施した埋蔵文化財包蔵地の試掘調査報告である。
- 2 調査対象地は平成2年4月17・18日に富山県教育委員会が主体となって実施した分布調査結果をもとに、以下を対象地とした。

N E J-01	(小矢都市水島地内)	能越自動車道本線
N E J-02	(　　〃　　水島地内)	〃
N E J-03	(　　〃　　道明地内)	〃
N E J-04	(　　〃　　五社地内)	〃
N E J-A-01	(　　〃　　石名田地内)	アクセス道路
N E J-A-02	(　　〃　　地崎地内)	〃
- ＊略記号N E Jは能(N)、越(E)、自動車道(J)の頭文字をとったものである。
- 3 調査は、建設省の委託を受け小矢都市教育委員会が実施し、社会教育課文化財係職員がそれに当たった。調整及び総括を係長伊藤隆三、事務經理を主事高木場万里、現地調査を主事山森伸正・塚田一成が担当した。
- 4 現地調査は142,400m<sup>2</sup>を対象に平成2年11月1日から同年12月22日まで、地元有志の作業員によって実施した。
- 5 本書の編集・執筆は、伊藤隆三・島田修一（県教育委員会文化財保護主事）の協力を得て、山森・塚田が担当した。
- 6 現場事務・現地測量・遺物整理にあたっては、早助よし子、森谷奈利子、八谷邦子、蟹谷百合子、福島きみ子、中田百合子、藤村祐子、赤野和恵、高山恵子の協力を得た。
- 7 出土遺物は小矢都市教育委員会が一括して保管している。

## 目　　次

卷首図版　能越自動車道と遺跡群（平成2年撮影）		
I 位置と環境	.....	1
第1図　調査の位置	.....	1
第2図　調査対象地と遺跡の位置	.....	2
II 調査経過	.....	3
試掘調査結果一覧表	.....	4
III 調査の概要	.....	5
第3図　五社遺跡の掘立柱建物	.....	7
第4図　各調査区の地形と地質	.....	8
第5図　本線の調査区1（水島地区）	.....	9
IV まとめ	.....	15
第8図　五社遺跡の遺物	.....	17
第9図　石名田遺跡の遺物1	.....	18
第10図　石名田遺跡の遺物2	.....	19
写真図版		
図版1～19　現地調査	.....	20
図版20～24　遺物	.....	20

## I 位置と環境（巻首図版、第1・第2図）

富山県の西部に展開する砺波平野中央部は庄川扇状地によって占められる。この地域は、激しい沖積活動によりたびたび流路を変える庄川との格闘の歴史ともいわれ、古くから洪水・氾濫などの被害を頻繁にうけてきた。一帯は、「散居村」の名で著名であるが、その成立・発展過程においては様々な諸説があり今なお不明な点が多い。一般には古代の孤立莊宅ないし「軒木満」の小村（疊塊村）は、中世以後遅くとも近世には集村化するが、なぜ散村となったのか。庄川扇状地特有の表土の薄・厚部の点在による地質規制、加賀藩の開拓政策などの関わりも検討されており<sup>〔文獻4〕</sup>いる。また、度重なる多くの氾濫から歴史は跡

形もなく破壊尽くされているともいわれる。しかしながら、高度成長期、旧河道から盛んに砂利採取がおこなわれ、地下2~3mの深くから五輪塔や須恵器などの遺物が引き上げられ（第2図、161内御堂遺跡・163金屋本江遺跡）、古代・中世にまで遡る生活痕跡を示している。なお、昭和40年代中頃から50年代前半にかけては、水落・道明・石名田・五社地区のほ場整備事業が実施され、旧米の地形が失われている。

庄川は、古くは金屋付近から砺波平野を北西に貫流して小矢部川と合流していたが、洪水のたびにすこしづつ合流点を下流へ換えていった。旧河道は西から野尻川、中村川、新又川、千保川とおおきくは4本が地形地質から認められている。なお、庄川扇状地の扇端部、標高20~30mの一帯は湧水帶で知られ、末端部に位置する標高10~15mの地帯は、網目状流路をとる大小河川の浸食によって生じた複雑な微地形が発達している。北陸本線、高岡駅と西高岡駅のはば中間に弥生時代の遺跡として著名的な石塚遺跡が立地し、付近には縄文時代晚期遺跡あるいは弥生時代の遺跡が数多く点在することで知られる。調査対象の能越自動車道は扇状地を標高44m~22mまで縦断し、アクセス道路は扇状地を標高22.5m前後の等高線沿いに横断する。五社地内、主要地方道小矢部・戸出線と本線の交差する北東隅には糸岡神社が所在する。平安時代の文献『和名抄』にみられる阿波郡十二郷中の「長岡郷」の推定地、中世皇室御領の「糸岡庄」の所在がこのあたりを中心としたことが知られる。また、その南西1km、七社地内には延喜式内社と称する砺波郡七座中の「長岡神社」が所在する。『小矢部市史』上巻で金田章裕氏は五社地区に西に約6度偏る条里地割の分布を指摘され、「大坪」の小字名が存在することを指摘している。さらに、アクセス道路東側には、中世に石黒氏などの居城として栄え、天正13年の大地震によって崩壊したとされる「木舟城跡」<sup>〔文獻1〕</sup>が所在する。



第1図 調査の位置



12.田川白土山横穴群、14.田川三角山横穴群、16.田川三角山西遺跡、21.桜町遺跡、22.桜町横穴群、23.天狗山古墳群、140.戸久遺跡、141.安養寺遺跡、142.西法寺山遺跡、146.浅地遺跡、151.高木山遺跡、152.高木山遺跡、153.蓑輪遺跡、161.内御堂遺跡、162.和沢遺跡、163.金星本江遺跡

第2図 調査対象地と遺跡の位置 (1:50,000)

## II 調査の経過

能越自動車道は、道路事情の変化に促し起てられた高規格幹線道路網計画の一環として、北陸自動車道・東海北陸自動車道と小矢部ジャンクションで接続する形で計画された。

平成2年4月に建設省より能越自動車道の工事構想・計画がもたらされた。それを基に、平成2年4月13日に建設省・県埋蔵文化財センター・市教育委員会の3者によって協議がなされ、計画路線内の埋蔵文化財包藏地の有無の確認をするため、分布調査を行う事とした。

分布調査は建設省・市建設課の協力を受け、富山県教育委員会が主体となり、県埋蔵文化財センター・市教育委員会が平成2年4月17・18日に実施した。平成2年5月14日にその結果の取りまとめについての協議が県埋蔵文化財センター・市教育委員会の2者の間で行われた。その結果、本線内でNEJ-01・02・03・04を、アクセス道路内でNEJ-A-01・02の計6ヵ所の遺跡推定地を定めるに至った。なお、この遺跡群は今まで周知されてはいなかった新発見の遺跡である。

分布調査の結果は平成2年5月24日に建設省（調査二課・工務課）・県道路公社・県道路課・県企画用地課・県文化課・県埋蔵文化財センター・市教育委員会の7者による会議で報告されその取り扱いについて協議が行われた。会議の結果、分布調査で判明した6遺跡について早急に試掘を実施し、より明確な遺跡の範囲を確定させたいという方向でまとまった。

建設省は調査を市教育委員会に委託し、これを受け市教育委員会では計画路線内の試掘調査を平成2年11月1日より12月22日まで実施した。試掘調査の方法は、遺跡推定対象範囲面積の約1割を予定し、幅約1mのトレンチを水田畦畔の方向に合わせて約10m間隔で設定した。トレンチはバックホーで掘削し、遺物・遺構を確認しながら順次掘り下げていく事とした。

次に掘削の終了した箇所から人力により壁面・平面の精査を行い遺構及び地層の堆積状況を確認し記録を取り、不明確な箇所についてはトレンチを拡張した。その結果NEJ-04、NEJ-A-01、NEJ-A-02で遺構・遺物を確認した。

調査の結果は平成3年2月26日に行った建設省（調査二課）・県道路公社・県文化課・県埋蔵文化財センター・市教育委員会の5者協議で報告され、NEJ-04、NEJ-A-01、NEJ-A-02をそれぞれ五社遺跡、石名田遺跡、地崎遺跡とすることとした。

### 調査日誌抄

- 11／1 NEJ-01試掘始める。排土中より珠洲焼2片出土。同日NEJ-01終了。
- 2 NEJ-02試掘始める。同日NEJ-03へ重機移動。1～15トレンチまで掘削終了。
- 5 NEJ-03、16～29トレンチまで掘削終了。
- 9 73・74トレンチで製塙土器、土師器（平安時代）など出土。
- 12 59～63トレンチ精査行う。

- 11/13 起工式跡のジャリ敷き除去始める。
- 19 37・38・62・63トレンチ、遺構確認のため一部拡張する。
- 22 72~74トレンチより地盤痕跡検出。
- 27 N E J-A-01へ移動する。石名田地内(98~104トレンチ)で奈良期の須恵器・土師器が出土する。
- 30 N E J-A-01からN E J-A-02へ移動する。
- 12/6 各トレンチ、掃除を行い写真撮影を始める。
- 7 N E J-04、81・82トレンチ埋め戻し。トレンチの平板測量始める。(98~104トレンチ)
- 10 117・118トレンチより土師皿・木製品など出土。
- 11 116~120トレンチ平板図作成。
- 12 130トレンチより柱穴検出。
- 17 154トレンチ一部拡張、近世の遺構多数検出。
- 19 154トレンチの近世遺構、実測始める。
- 20 N E J-04、埋め戻し。
- 22 現場の後片付け。

試 捜 調 査 結 果 一 覧 表

通 跡 名	所 在 地	面 積 (m <sup>2</sup> )	測量期間	遺 物 ・ 遺 構 等	時 代	遺跡面積(m <sup>2</sup> )	
N E J-01	水島地内	分布面積 5,600m <sup>2</sup>	1/1 - 1/2	遺 物 陶器片、陶磁器	中世		
		調査面積 271m <sup>2</sup>		遺 構 なし	近世		
N E J-02	水島地内	分布面積 8,000m <sup>2</sup>	1/1 - 1/2	遺 物 陶磁器	近世		
		調査面積 237m <sup>2</sup>		遺 構 なし			
N E J-03	道明寺地内	分布面積 16,800m <sup>2</sup>	1/2 - 1/3	遺 物 陶器群	近世		
		調査面積 1,184m <sup>2</sup>		遺 構 なし			
N E J-04 (五社遺跡)	五社地内	分布面積 67,000m <sup>2</sup>	1/6 - 1/6	遺 物 須恵器・土師器・製塙土器・陶器・土師皿・輸入陶磁器	◎平安時代後半 (9~11世紀)		
		調査面積 2,977m <sup>2</sup>		遺 構 挿立柱建物(62.63)・柱穴・土坑等(37.38.62.63.66~69)・溝状構(37.45.51.66.67.69)	◎中世 (12~16世紀)		
				その他 地震痕跡(46.69.73.74.82)	近世	32,000m <sup>2</sup>	
N E J-A-01 (石名田遺跡)	石名田地内	分布面積 25,200m <sup>2</sup>	1/2 - 1/3	遺 物 須恵器・土師器・陶器・土師皿・輸入陶磁器・木製品(下駄・漆器・箸・加工材)	◎奈良・平安時代 (8世紀中葉~9世紀)		
		調査面積 1,462m <sup>2</sup>		遺 構 柱穴・上丘等(101.102.104.109.113.118.119.120.127.130)・溝状構(98~104.110~113.115~121)	◎中世 (12~16世紀)		
				その他 地震痕跡(101.102.103.104.115.117.118.119)	近世	21,000m <sup>2</sup>	
N E J-A-02 (地崎遺跡)	地崎地内	分布面積 19,800m <sup>2</sup>	1/6 - 1/7	遺 物 陶器器・木製品(下駄・加工木)			
		調査面積 1,049m <sup>2</sup>		遺 構 挿立柱建物・穴(154)	◎近世	1,000m <sup>2</sup>	
合 計		分布面積 142,400m <sup>2</sup>		その他 地震痕跡(136.138)		54,000m <sup>2</sup>	
< )内は遺構を検出したトレンチ番号 ◎は主体を占める時代							

### III 調査の概要

#### 能越自動車道本線の調査

N E J - 01 (第4・5図、図版1)

小矢部ジャンクション予定地付近で、調査対象地では標高が最も高く44mを測る。地質は概して粗砂及び砂礫層で北西部の一部でシルト層がみられた。調査区の北端、耕作土から珠洲焼2片・土師質皿1片・近世陶磁器3片が出土したが、遺構は確認できなかった。

N E J - 02 (第4・5図、図版2)

標高43m。過去に砂利採取によって掘削された場所。7本のトレントをいれ一部を深くまで重機で掘り下げるが、耕土下2m以上が搬入砂である。遺物・遺構なし。

N E J - 03 (第4・6図、図版3・4)

標高26~27m。1~26トレントを調査対象とし、近世陶磁器2片が出土した。分布調査では近世陶磁器・古銭が表採されたが、耕土下は砂礫層で遺構は認められない。なお、25トレントから北で表層地質がシルト層に変わる。

N E J - 04 (第3・4・6図、図版5~9)

標高22~26m。30~97トレントを調査対象地とし、35~63・66~74トレントで近世・中世・平安時代の各種の遺物が出土。耕土直下(約20cm)が遺構検出面(青灰色シルト層)で耕土中に遺物を含む。37・38では穴と溝、62・63では掘立柱建物と土塁、66~69では柱穴・溝を検出した。柱穴はほとんどが直径20~30cmを測る。62・63・66・67で検出した柱列の柱間は2.2~2.5mと中世期に通有のあり方を示し、方位はほぼ真北を向く。(62・63の建物はN-8°-EとN-8°-W)

全域で中世(鎌倉~室町時代まで)の遺物の出土があるが、特に35~39、62・63で多い。73・74では下層黒色土中より平安時代後半の遺物が多く出土しており、製塩土器が含まれる。なお、下層の黒色土の堆積は南へしだいに深くなり遺跡南端(35)では約2m、北端(66)では耕土直下で検出できる。66・67の柱穴は検出面(耕土直下)から深さがほとんどなく、おそらく66より北は後世に削平され当時の生活面が残っていないものと考える。また、40から51では遺物出土が希薄であったが、45・51・52で拡張した際に浅い溝や若干の遺物出土が追加されたため遺跡範囲内に含めた。

46・69・73・74では地震によるものとみられる亀裂が多く認められる。黒色土に青灰色砂が不定方向に稜妻状に走る。84で深く掘り下げ、シルト層から0.5m下が砂礫層で激しい勢いで浸水する。81から北は表層が再び砂礫層となる。

#### アクセス道路の調査

N E J - A - 01 (第4・7図、図版10~16)

標高22~23m、扇状地を東西に横断するため比高差はほとんどない。表層地質は東側98~112

まで暗褐色粘性土ないし青灰色シルト層、106～112はわずかに入り組んだ低地となるようやや低湿をおびる有機物の堆積がみられる。112～119付近まではシルト層からしだいに粗砂層となり、119～130が砂礫層で細い微高地（自然堤防）を形成する。130～141は低湿なシルト層と有機物層の互層となり、141から西は再び砂礫層の微高地となる。

98～135トレンチを調査対象地とし、98～131トレンチで中世・奈良・平安時代の遺構・遺物が出土した。98～110は奈良・平安時代を主体とする遺構・遺物が多い。とくに98～104は、耕作土下に約20～30cmの暗褐色土の遺物包含層があり、遺物量は整理箱5箱と他の調査区に比較して多い。律令期の遺構検出面は包含層の下、青灰色シルト層に切り込んで明瞭に認められる。約20数個の穴と10数条の溝を検出した。穴は直径30～40cmが標準的大きさで建物の柱穴が含まれるものと考えられる。99～102の南側では遺物を多く含む溝が北東方向に流れ、幅0.5～2m、深さ約0.2mを測る。100の北半・103の中央・110北では幅20cm前後の溝が30～50cmおきに連続して平行するものがみられ、律令期の畑などの耕作痕跡と考えられそうなものもある。98～110では中世の遺物も若干認められるが明瞭な遺構は検出できない。ただし、101～104で包含層の上層部を掘り込み、有機物を含む幅約1mの溝が1条、真北方向に流れる。其伴する遺物がなく時期の特定はできない。

106～131トレンチでは中世を主体とする遺構・遺物が多い。120では柱穴が3個列で検出でき、掘立柱建物の一部とみられる。直径約40cmの掘り方で柱根が残る。柱間1.8m、東西方位をとる。130でも硬い砂礫層を掘り込んで柱根の残る柱穴（直径50cm）が検出された。116～120では16世紀頃の土師質皿が包含層および溝の中から多く出土した。不明瞭であるが115～120の南側で北北東に流れる溝なし落ち込みがあり、中からは下駄・漆器・箸などの木製品も出土している。118では土師質皿・炭・焼け石を含む直径約1mの土坑2基を検出した。また、117の南端で欹状の遺構らしきものがあった。

130の西半から141までは低湿な沼地の堆積に変わるが、縁辺で角柱の横たわるもの認められた。113～119までの間で部分的に深く掘り下げ中世面下層の確認を行った。113・114で青灰色砂層下1.2mに黒色上の堆積があるが遺物は認められず判然としない。116北・115中央の約1m下は粗砂層で浸水が激しい。

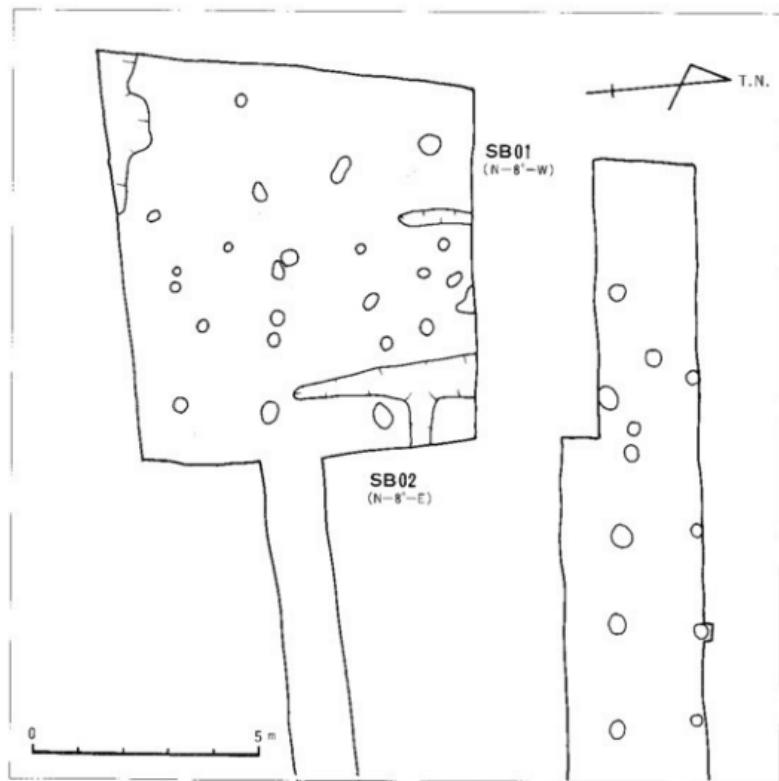
地震による亀裂は102～103・115・116・118・136など各所認められる。とくに116・118の亀裂は幅約5cmと他に比較して大きい。当地域では、確実に液状化が発生する震度VIの地震を2度被っている。ひとつは、飛驒帰雲城、越中木舟城を崩壊に至らしめたとされる天正13(1586)年の白山地震であり、いまひとつは、安政5(1858)年の飛越地震である。五社遺跡及び石名田遺跡で検出された亀裂・噴砂はこのいずれかの地震によるものである可能性が高いが、いずれによるかを決するには時期の明確な遺構との切り合い関係が確認されることは必須であり、今のところ地震年代の特定はできない。

なお、100の東端で弥生土器が奈良・平安時代の遺物に混じって1片見つかり、周辺で下層

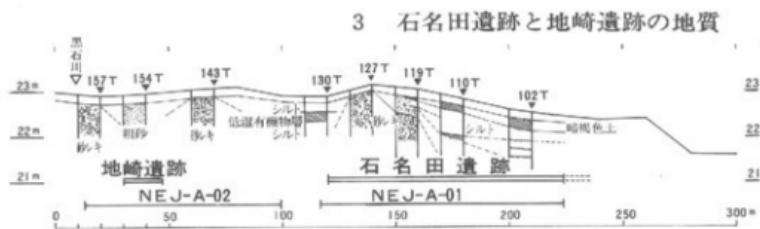
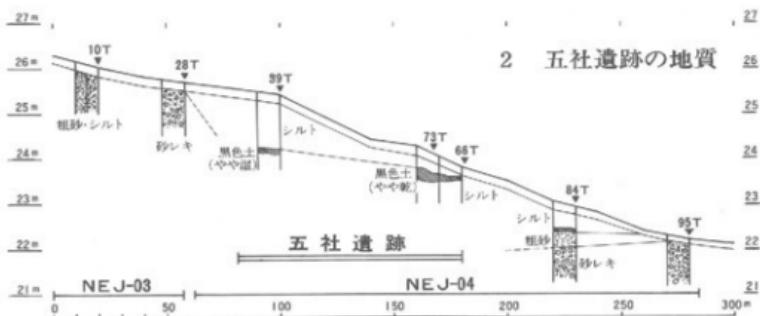
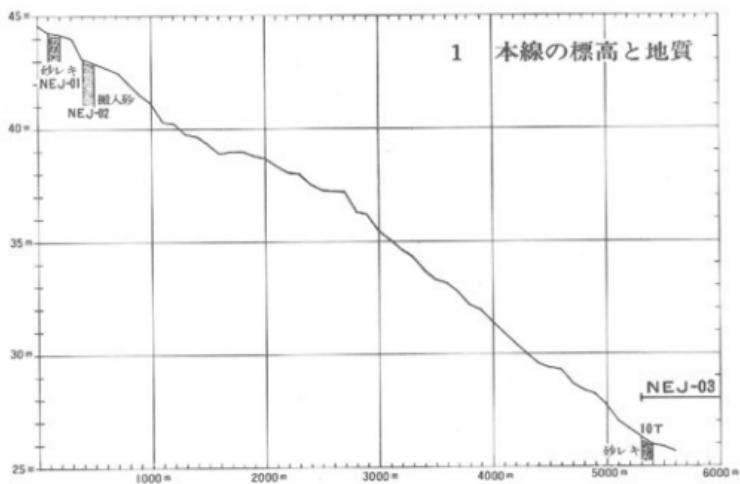
調査を実施したが他に遺物は認められなかった。

N E J - A - 02 (第4・7図、図版17~19)

近世の陶磁器が142~161で出土。150・154で特に多く、154束の拡張区では掘立柱建物・溝・土坑を検出した。柱穴は拳大の石を詰め込んだものが多く、柱根の残るものもある。50m<sup>2</sup>たらずの狭い調査区の中で約20個もあり、建て替えが考えられる。遺物は越中瀬戸焼が多く伊万里・唐津焼もある。



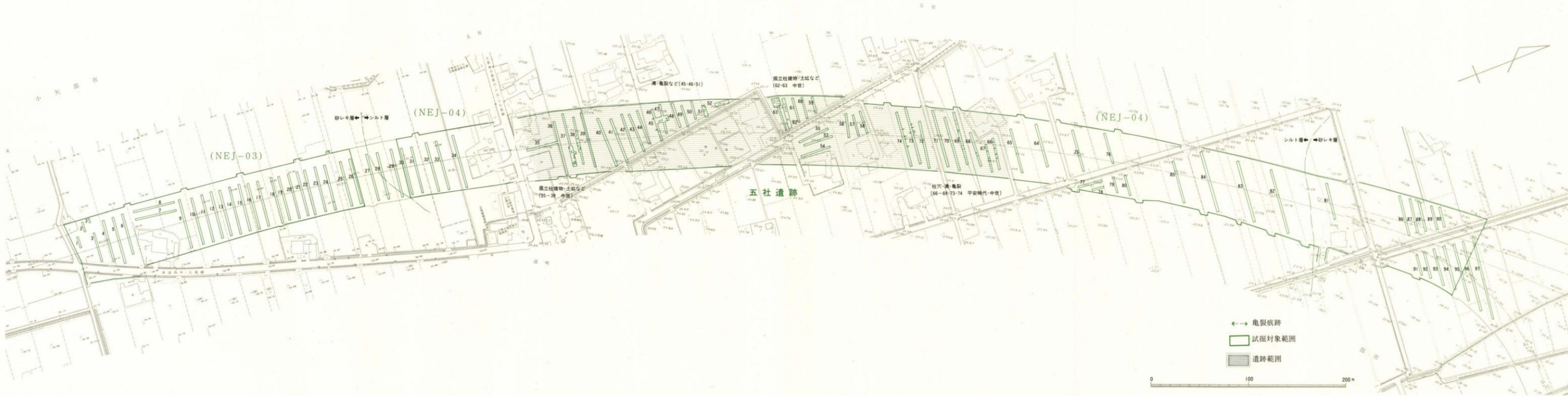
第3図 五社遺跡の掘立柱建物 (62・63トレンチ)



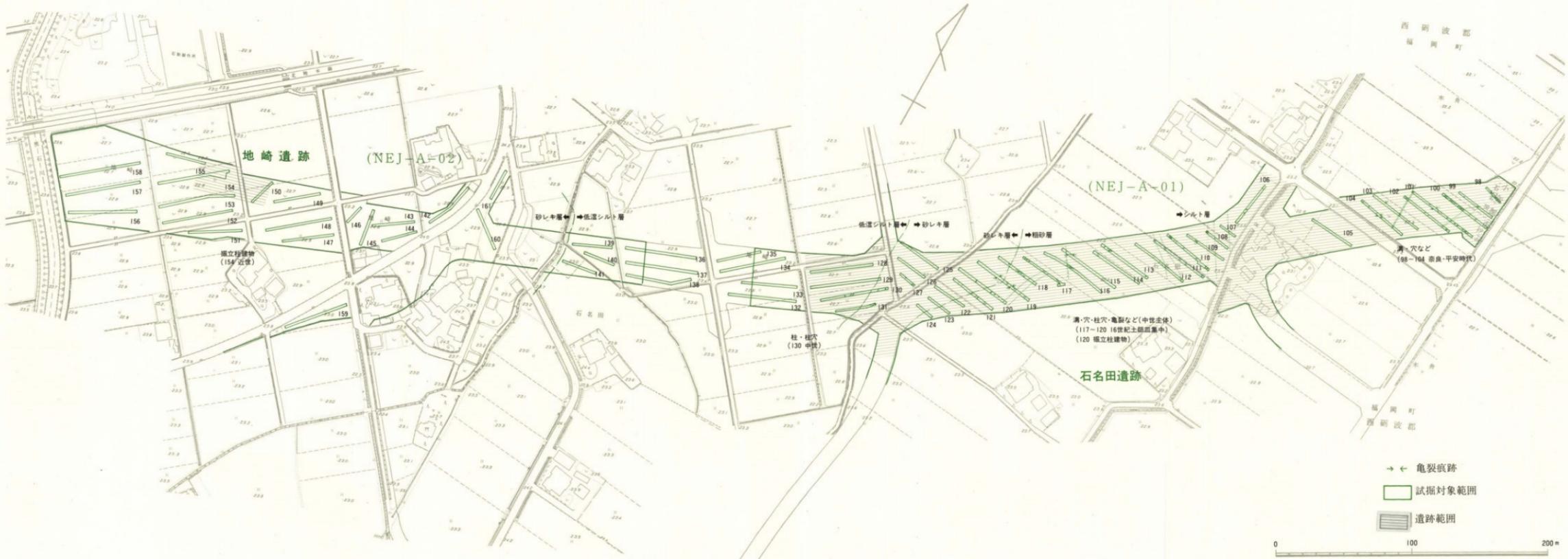
第4図 各調査区の地形と地質



第5図 本線の調査区2（水島地区）1:2,000



第6図 本線の調査区2（道明・五社地内）1:2,000



## IV まとめ

NEJ-01～03については遺物出土がほとんどなく遺構の遺存も認められないため遺跡と認定しがたいが、NEJ-04・NEJ-A-01・NEJ-A-02は遺構・遺物の遺存状況の良好な範囲がとらえられ、遺跡と判断した。遺跡の名称はそれぞれ字名をとって、NEJ-04を「五社遺跡」、NEJ-A-01を「石名田遺跡」、NEJ-A-02を「地崎遺跡」とした。以下、各遺跡ごとの出土遺物をみながら、まとめにかえたい。

### 五社遺跡（第8図、図版20）

弥生時代（1）、平安時代後半～中世初頭（2～30）、中世（31～55）に大別できる。

弥生時代：1は弥生時代後期の甕か壺の口縁部。摩滅が激しく、下層を深く掘り下げても包含層は認められず、混入品と考えられる。

古代末～中世初頭：土師器碗及び皿3～5・9～25を主体とし、6～8の須恵器は包含層中すべてを数えても4片にすぎない。底部は回転糸切り痕を残すものが多い。26～30はバケツ型の製塙土器。2は土鍤。

中世：31～34は土師質皿、35は用途不明の穴の空いた円盤、36は土鉢、39～52が珠洲焼で、（文部省）37～49は甕・叩き壺、50～55が片口鉢。珠洲系陶器編年〔吉岡1981〕のII～IV期を主体として中世全般にわたる幅広い時期の遺物がある。

中世全般を主体とする遺跡であるが、遺跡範囲の北では平安時代後半にさかのほる遺物もある。県内では発見された遺跡数が非常に少なく、古代から中世への空白を埋める意味をもつ資料である。満はわずかにしか検出できなかったが、中世の条理地割による溝などの区画、また集落との関係が期待されそうである。集落の形態は37・63・69トレンチの3箇所に分散点在して建物・遺物が集中している。各遺物の出土位置は以下に示すとおりである。

34トレンチ：44、36トレンチ：1、37.38トレンチ：31-34.37-43.46.48-51.53-55、47トレンチ：35、51トレンチ：4.47.52、62トレンチ：2.3.5.45、73.74トレンチ：6-30.36

### 石名田遺跡（第9～11図、図版21～24）

弥生時代（147）、奈良・平安時代（55～121）、中世（131～146）、中世末～近世初頭（148～181）の四期に大別できる。

弥生時代：147は弥生時代後期の装飾台付き壺の体部帶片。100トレンチから出土。周辺で下層確認したが包含層は確認できなかった。

奈良・平安時代：須恵器は蓋55～62、高台付き杯63～68、無高台杯69～73、鉢74、75～85の長頸瓶・双耳瓶・短頸壺・広口壺・横瓶（81～83）がある。8世紀中葉～9世紀の遺物。86～106は同期の土師器甕口縁部、107～109は土師器皿、110は土師器碗、111～115・118～121は上

師器裏及び場の底部、116・117は高杯、122～130は土鍤。

中世：131～146が珠洲焼で、131～139は甕、140は壺底部、141～146は片口鉢。珠洲系陶器編年〔吉岡1981〕のII～V期にあたる。173～176が同期の土師質皿。

中世末近世：148～172が土師質皿。口径7.8cm～8.8cmの小型のもの、12.6～13.8cmの中型のもの、14.8～16.0cmの大型のものの3種類の法量差がある。小型のものは灯芯痕の残るものが多い。177は耳皿、178は瓦質の火鉢、179は灰釉陶器小皿、180は越前焼甕、181は越前焼堀り鉢。

遺跡範囲の東と西で主体とする時代が異なり、東は奈良・平安時代、西は中世を主体とする。中世は特に16世紀頃の一括遺物が得られ、木舟城の震災（天正13年）の時期とよく合致し、地震亀裂痕との関係が興味深い。また、庄川扇状地でも扇端部湧水帯付近では古代から集落が形成されていたことが確認できたことの意味は大きい。各トレンチの出土遺物は以下に示す。

99-104トレンチ：55-130.135.138.147, 106トレンチ：145.146.173, 114-119トレンチ：132-134.137.139.140.142.144.148-155.159-172.177.178.181, 120.121トレンチ：141.174-176.180, 130-132トレンチ：131.143.158.179

#### 地崎遺跡（第12図、図版23）

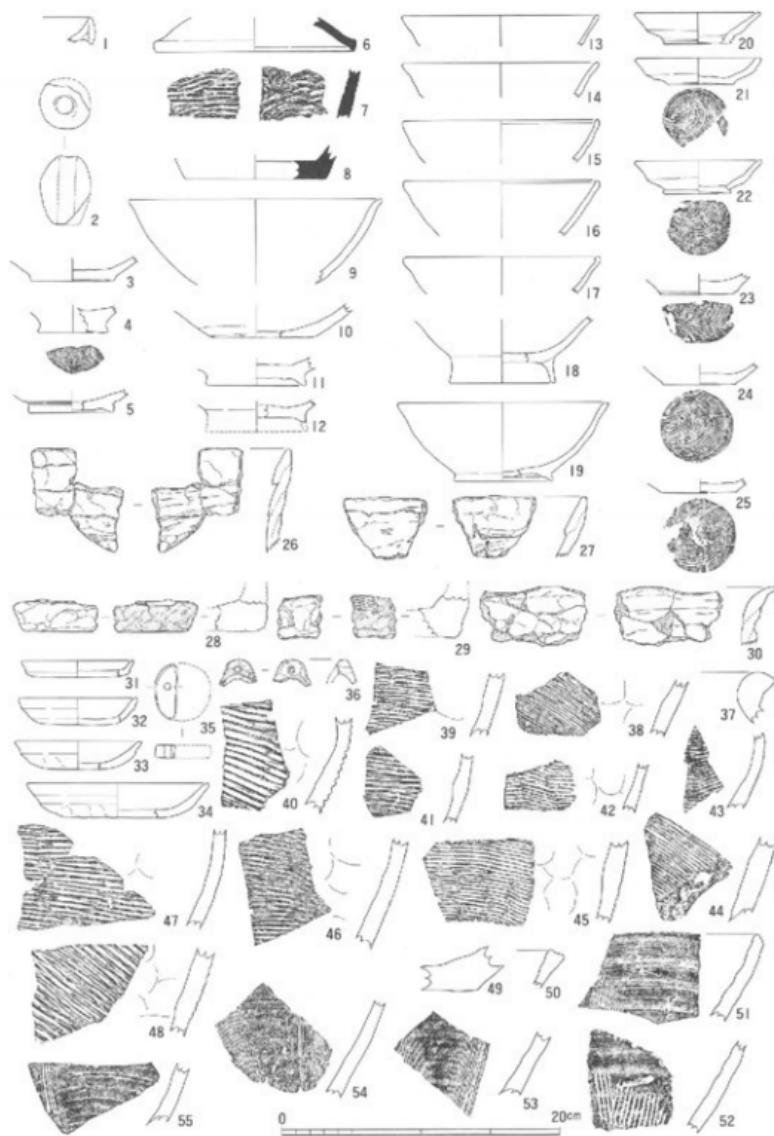
越中瀬戸焼皿182～187。189は瀬戸焼の天目茶碗。190は白磁紅皿、191は見込五弁花のコンニャク印判の伊万里焼碗、192は見込蛇の目釉ハギの唐津焼皿、193は越前焼堀り鉢。194は越中瀬戸焼堀り鉢。以下、各トレンチごとの出土遺物。

129トレンチ：192, 148トレンチ：193, 150トレンチ：182.184.186.187.189.194, 159トレンチ：185.188.190.191

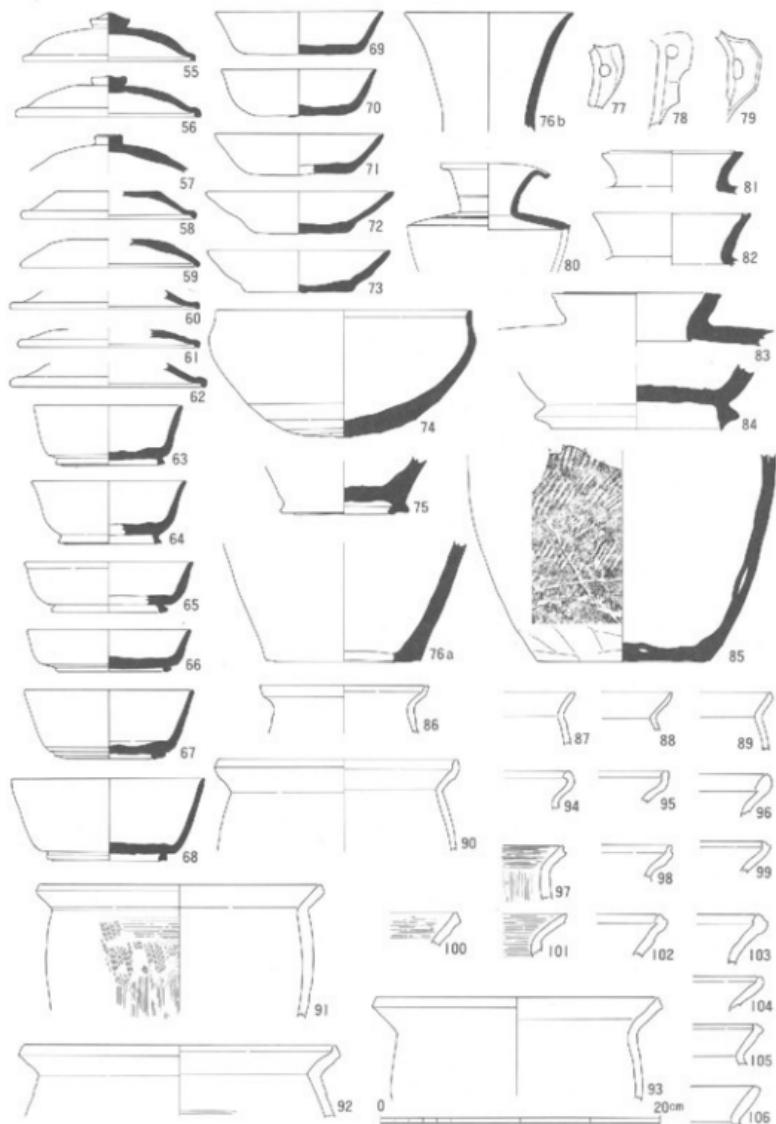
試みに各遺跡と出土遺物の関係を時代順に追うと1：石名山遺跡東方（奈良・平安時代）、2：五社遺跡北方（古代末中世）、3：五社遺跡全城・石名山遺跡西半城（中世全般）、4：石名山遺跡中央部（中世末近世初頭）、5：地崎遺跡（近世後半）となり、連続して時代が追える。

#### 引用文献

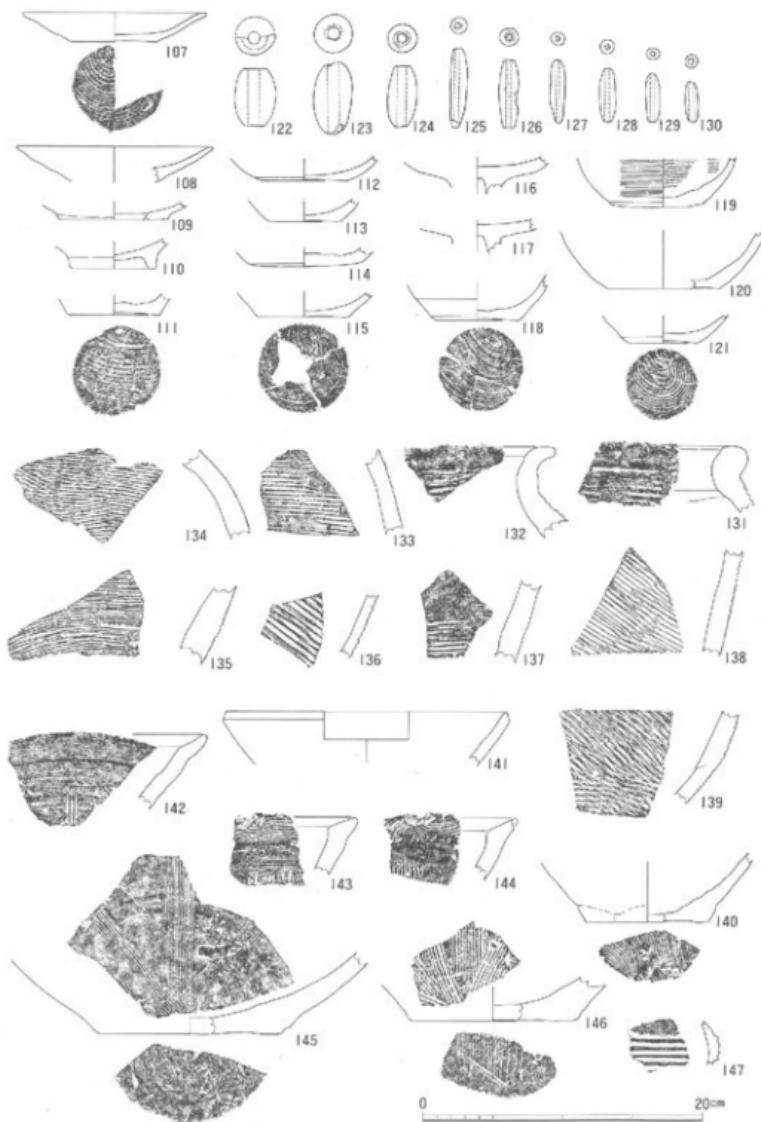
- 小矢部市 1971 「小矢部市史」上巻  
吉岡康暢 1981 「中世陶器の生産と流通」『考古学研究』第27巻第4号 考古学研究会  
小矢部市教育委員会・小矢部市埋蔵文化財分布調査団 1985 「小矢部市遺跡地図台帳」  
金田章裕 1986 「勘波散村の展開とその要因」『散居村地域研究所研究紀要』第3号



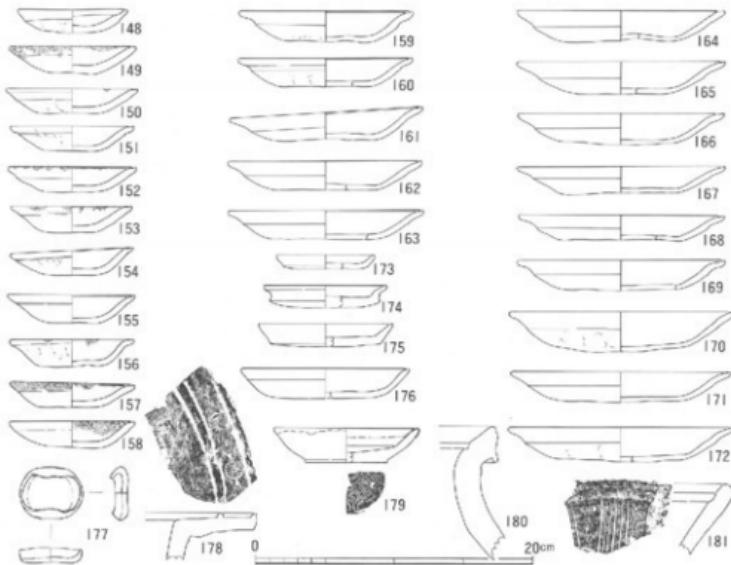
第8図 五社遺跡の遺物 (1:弥生時代 2~30:平安時代~中世初頭  
26~30は製塙土器 31~54:中世)



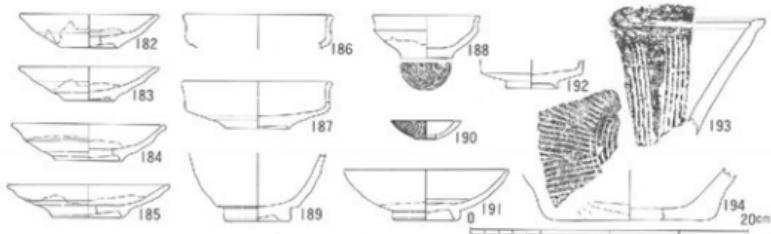
第9図 石名田遺跡の遺物1 (奈良～平安時代)



第10図 石名田遺跡の遺物 2 (107~130:奈良~平安時代 134~146:中世 147:弥生時代)



第11図 石名田遺跡（西部）の遺物3（中世～近世初頭）



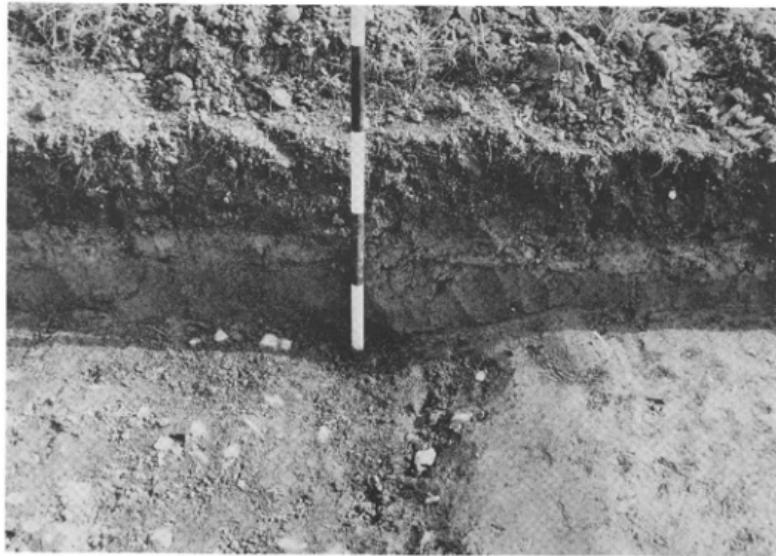
第12図 地崎遺跡の遺物（近世）

# 図 版

図版 1 本線の調査（水島地内）



作業風景 (NEJ-01)



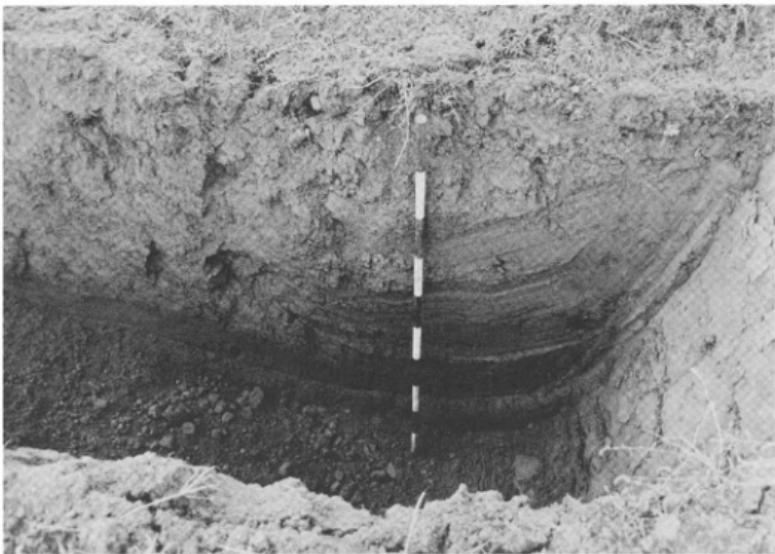
土層断面 (NEJ-01)

図版2

本線の調査  
(水島地内)



作業風景 (N E J-02)



土層断面 (N E J-02)

図版3 本線の調査（道明地内）



作業風景 (NEJ-03)



1 トレンチ (NEJ-03)



9 トレンチ (NEJ-03)

図版4 本線の調査（道明地内）



11トレンチ (N E J-03)



15トレンチ (N E J-03)

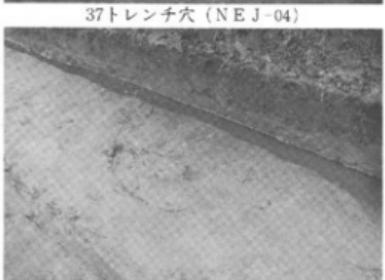
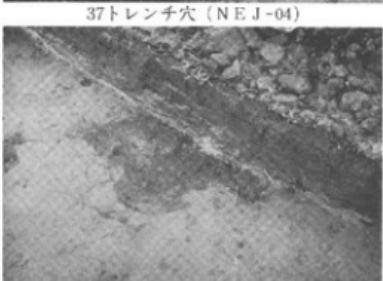
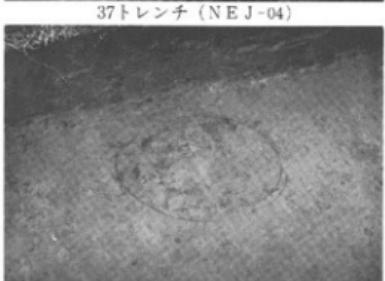
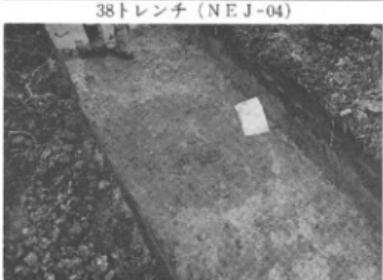


23トレンチ (N E J-03)



34トレンチ (N E J-04)

図版5 本線の調査（五社地内）





63 トレンチ拡張、掘立柱建物 (N E J-04)



62 トレンチ拡張、掘立柱建物 (N E J-04)



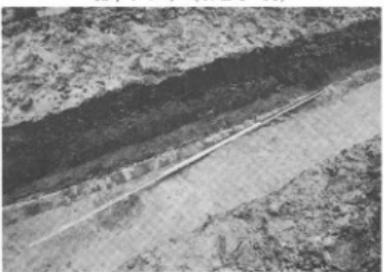
40~44 レンチ遠景 (NE J-04)



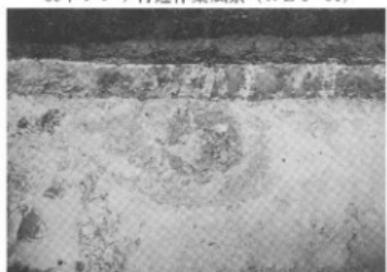
45 レンチ (NE J-04)



69 レンチ付近作業風景 (NE J-04)



67 レンチ穴 (NE J-04)



67 レンチ穴 (NE J-04)



66 レンチ穴 (NE J-04)



67 レンチ溝 (NE J-04)



66~71 レンチ遠景 (NE J-04)



65トレンチ (NE J-04)



81トレンチ (NE J-04)



84トレンチ (NE J-04)



85トレンチ (NE J-04)



82トレンチ (NE J-04)

図版 9 本線の調査（五社地内）



作業風景 (NE J-04)



96 トレンチ (NE J-04)



97 トレンチ (NE J-04)

図版  
10

アクセス道路の調査（石名田地内）



作業風景 (NE J-A-01)



102 レンチ穴と溝 (NE J-A-01)

図版11 アクセス道路の調査（石名田地内）



100 トレンチ溝内遺物出土状況 (N E J-A-01)



101 トレンチ溝内遺物出土状況 (N E J-A-01)

図版  
12

ア クセス道路の調査  
(石名田地内)



作業風景 (NE J-A-01)



117 トレンチ土師皿出土状況 (NE J-A-01)



117 トレンチ土師皿出土状況 (NE J-A-01)



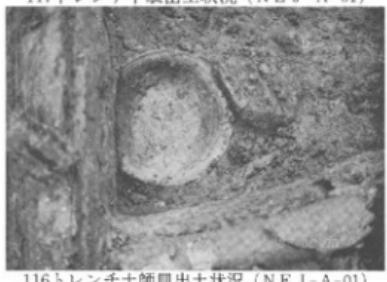
118 トレンチ穴の遺物出土状況 (NE J-A-01)



118 トレンチ土師皿出土状況 (NE J-A-01)



117 レンチ下駄出土状況 (NE J-A-01)



116 レンチ土師皿出土状況 (NE J-A-01)



117 レンチ木製品出土状況 (NE J-A-01)



116 レンチ遺物出土状況 (NE J-A-01)



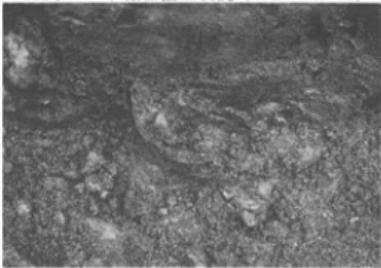
116 レンチ漆器出土状況 (NE J-A-01)



116 レンチ漆器出土状況 (NE J-A-01)



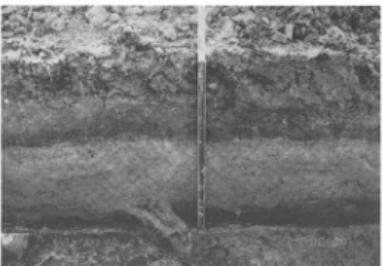
117 レンチ漆器出土状況 (NE J-A-01)



116 レンチ漆器出土状況 (NE J-A-01)



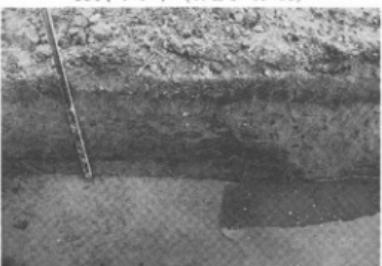
114トレンチ (NE J-A-01)



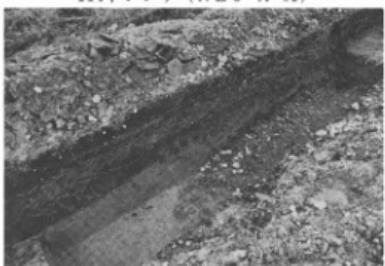
114トレンチ (NE J-A-01)



114トレンチ (NE J-A-01)



115トレンチ (NE J-A-01)



119トレンチ (NE J-A-01)



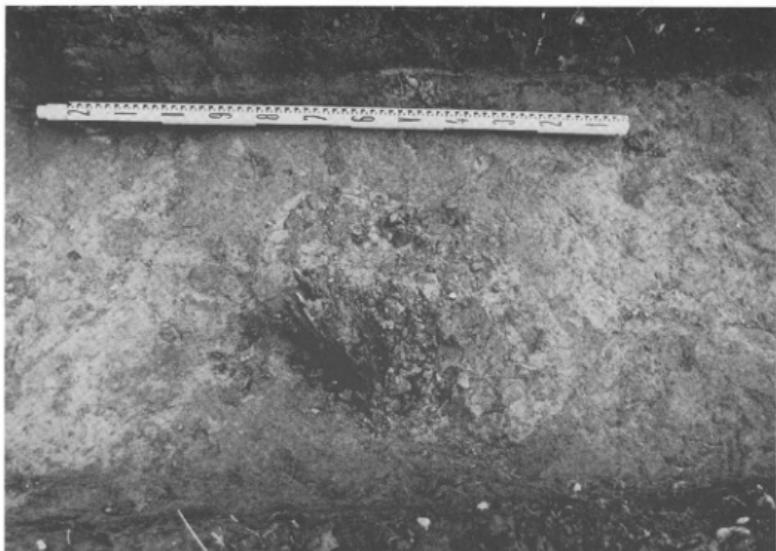
119トレンチ (NE J-A-01)



120トレンチ (NE J-A-01)



127トレンチ (NE J-A-01)



120 トレンチ柱穴検出状況 (N E J-A-01)



130 トレンチ柱穴検出状況 (N E J-A-01)

図版  
16

アクセス道路の調査  
(石名田地内)



135 トレンチ (N E J - A - 01)



130 トレンチ角柱材出土状況 (N E J - A - 01)

図版 17 アクセス道路の調査（地崎地内）



154 トレンチ (N E J - A - 02)



154 トレンチ柱穴たちわり状況 (N E J - A - 02)



154 トレンチ (NE J-A-02)



154 トレンチ柱穴検出 (NE J-A-02)



154 トレンチ柱穴断面 (NE J-A-02)



154 トレンチ柱穴検出 (NE J-A-02)



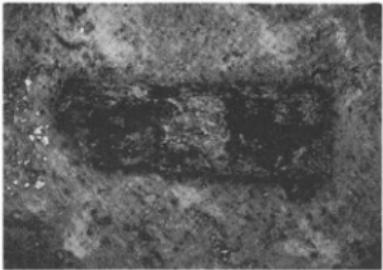
154 トレンチ柱穴断面 (NE J-A-02)



154 トレンチ根石検出 (NE J-A-02)



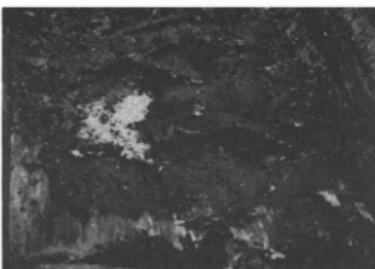
154 トレンチ溝 (NE J-A-02)



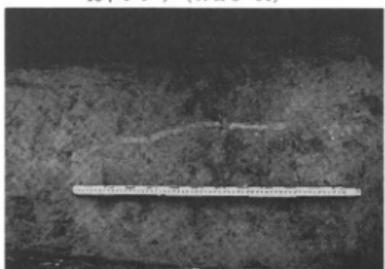
154 トレンチ下駄 (NE J-A-02)



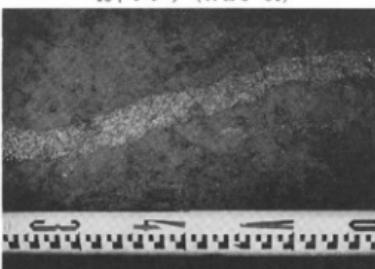
46トレンチ (NEJ-04)



46トレンチ (NEJ-04)



116トレンチ (NEJ-A-01)



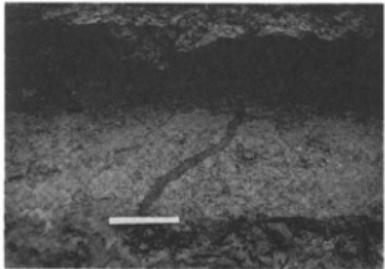
116トレンチ拡大 (NEJ-A-01)



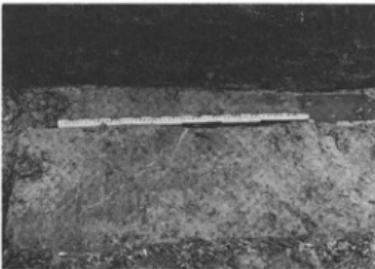
116トレンチ (NEJ-A-01)



115トレンチ (NEJ-A-01)



136トレンチ (NEJ-A-02)

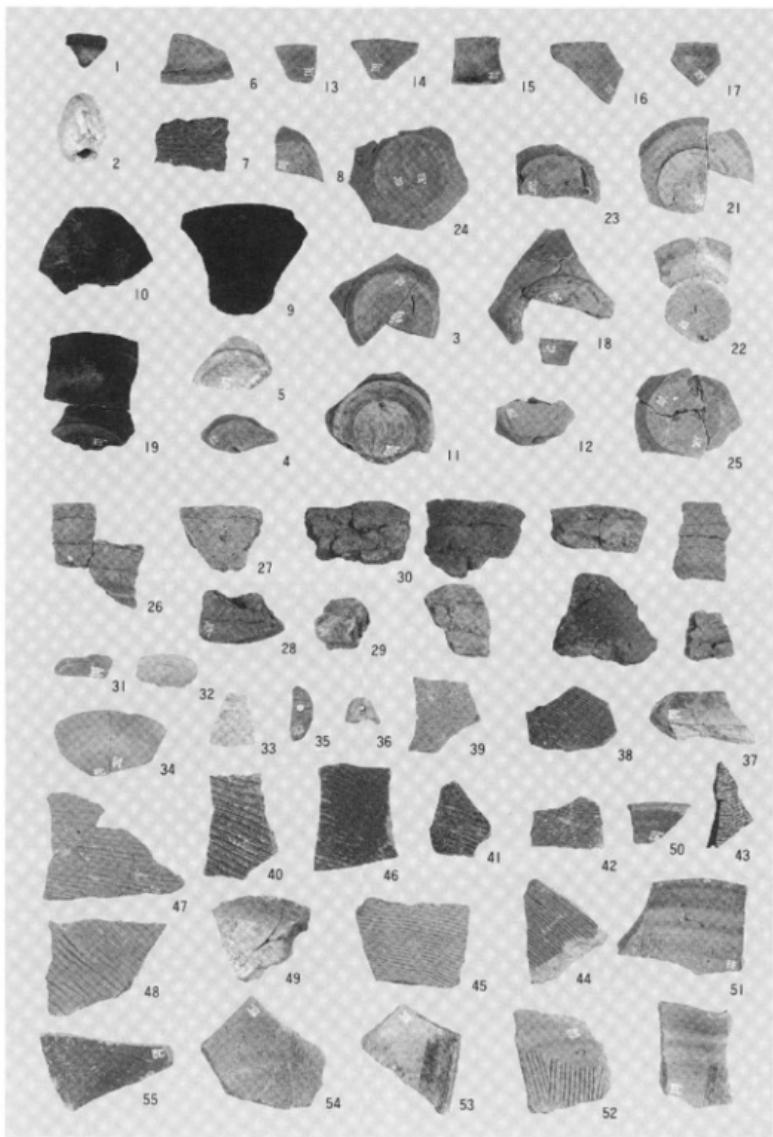


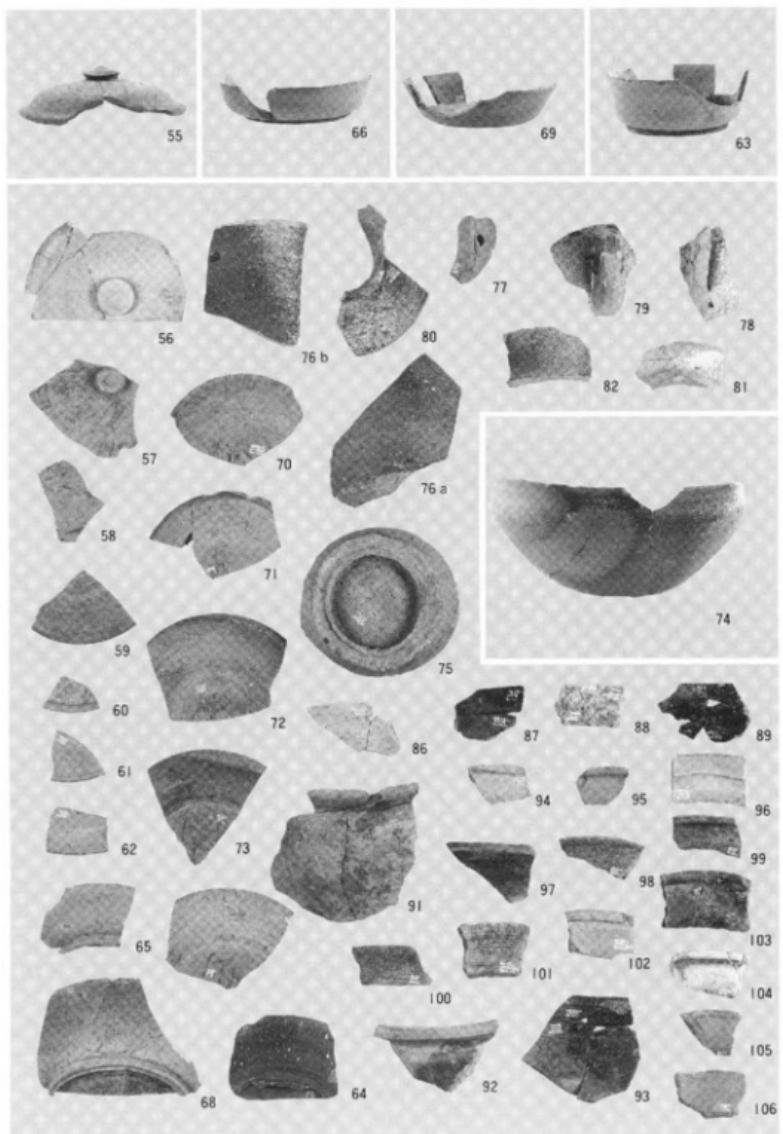
115トレンチ (NEJ-A-01)

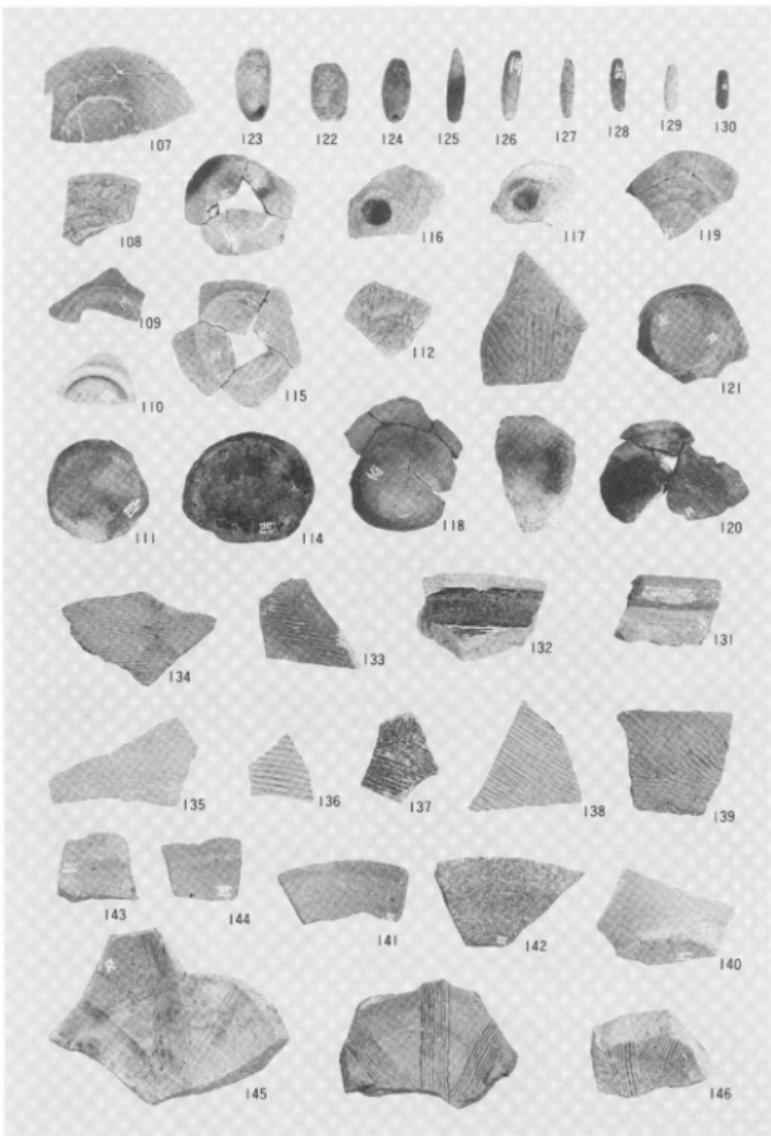
図版  
20

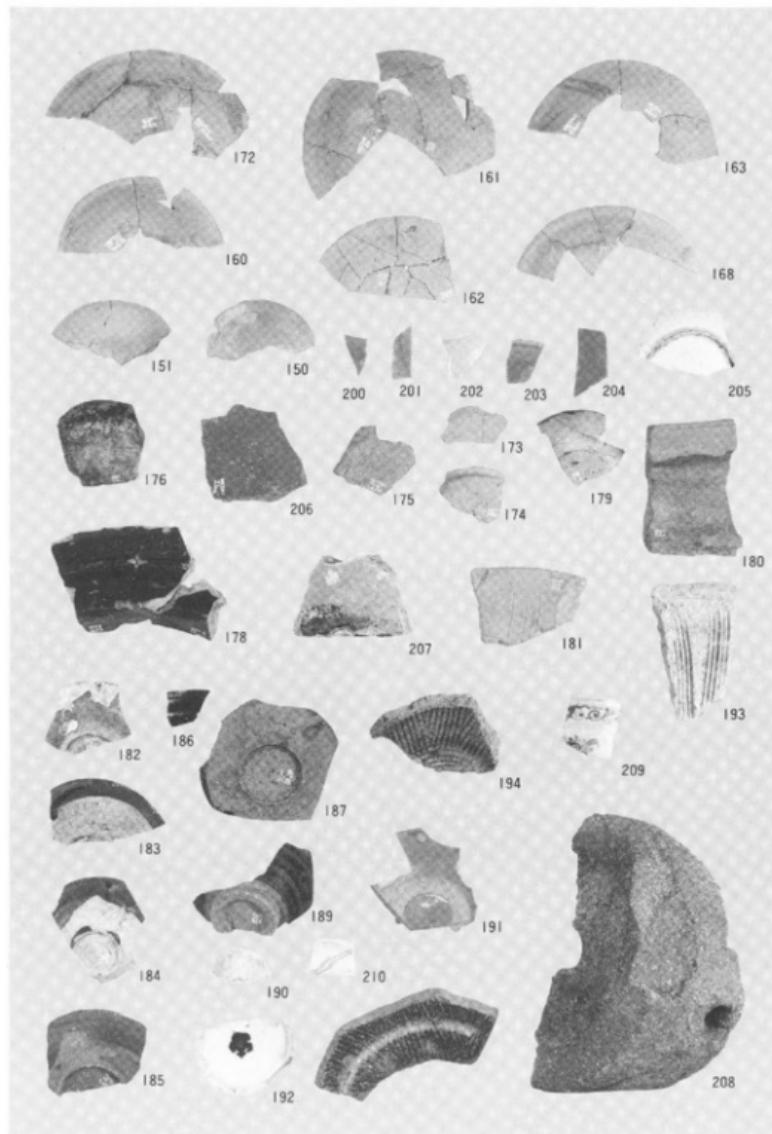
五社遺跡の遺物

1/4



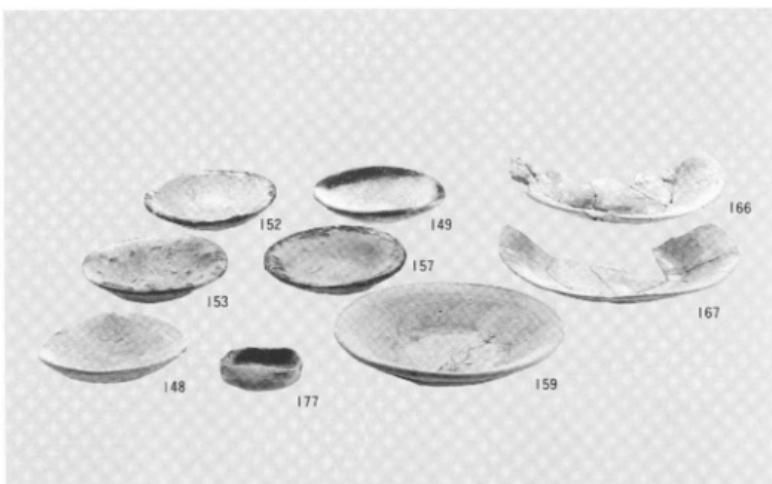






図版  
24

石名田遺跡の遺物  
3



中世末の土師皿



奈良・平安時代の須恵器

小矢部市埋蔵文化財調査報告書第33冊

富山県小矢部市  
能越自動車道関係遺跡群試掘調査報告  
—五社遺跡・石名田遺跡・地崎遺跡—

発行日 1991年3月30日  
編集・発行 小矢部市教育委員会  
(〒932 富山県小矢部市本町1番1号)  
TEL 0766-67-1760  
印 刷 アヤト印刷株式会社

